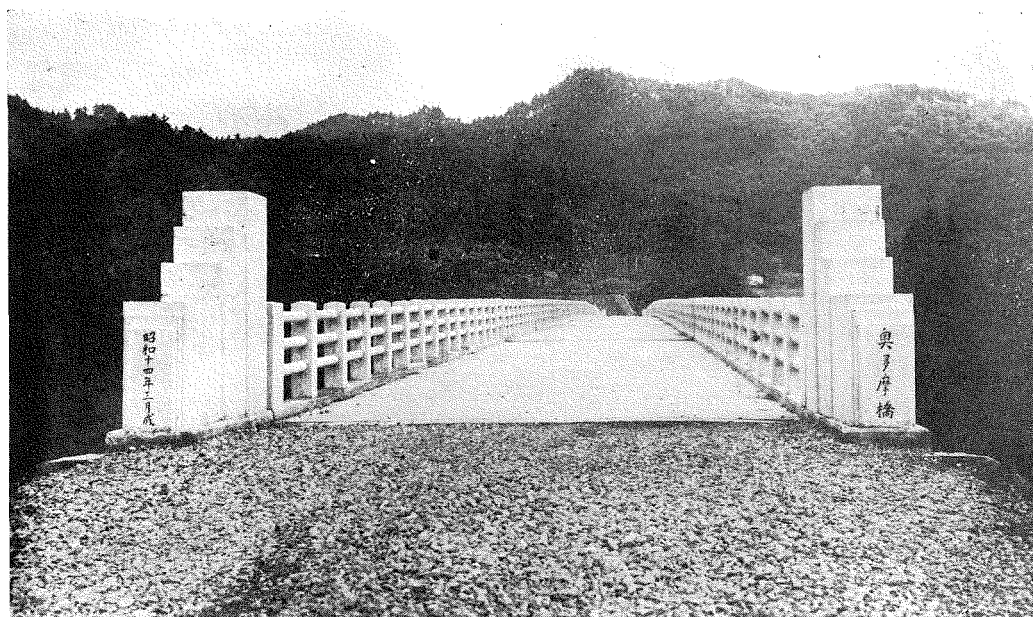




1. 奥多摩橋(竣工後右岸正面)

奥多摩橋

東京府土木部橋梁課技師 南保賀

1. 沿革並に計畫

本橋架設位置は西多摩郡青梅町同調布町入會多摩川に架す萬年橋と、同三田村地内同多摩川に架す御嶽橋の略中央に當り、梅林を以て聽ゆる吉野村と三田村二俣尾附近との連絡は約10km迂廻して上記兩橋の何れかに依るの他はなかつた。尤も湯水の季節に於ては假棧橋を築造し、人のみの通行を計つてゐたが一度降雨到れば忽ちにして流失し交通全く杜絶する状況である。勿論渡船の便全くないではないが之亦出水の際は全然用をなさず、爲に本橋架設は地元民多年の懸案にして、先づ昭和2年2月、府費補助道への編入を見、更に昭和11年11月6割の府費補助を以て着工を見るに至つた。

2. 設計概要

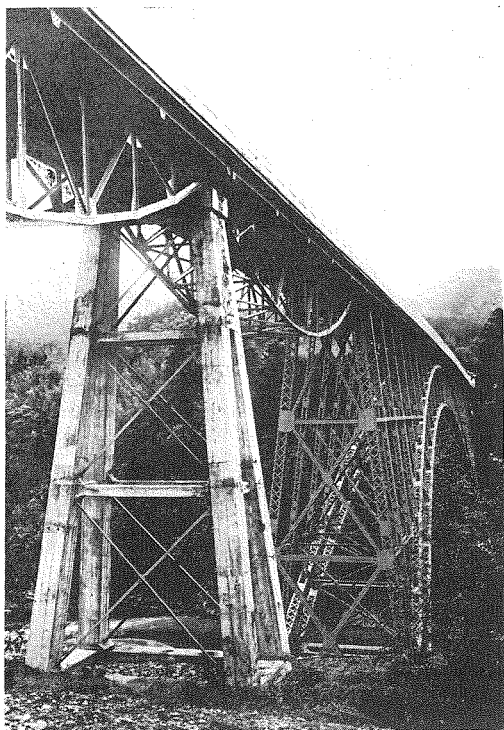
- 1 位置 東京府西多摩郡 吉野村 抽木 三田村二俣尾 入會多摩川に架す。
- 2 路線名 町村補助道吉野二俣尾停車場道
- 3 橋長及幅員 總經間 176.63m
有效幅員 4.5m
橋面積 794.8m²
- 4 型式 右岸側經間 鋼構
(支間 22.5m) 2連
左岸 " " (支間 22.5m) 1連
中央部經間 鋼構2鉸拱
(支間 108.0m) 1連

- 5 橋面舗装 コンクリート舗装
6 取付道路 延長 473.86m
有効幅員 5.5m

3. 工 事 概 要

昭和11年11月總工費100,650圓(内府費補助額60,390.0圓、地元町村負擔額 49,270圓)を以て着工、工事半ばにして今次の支那事變に遭遇し、諸物質の騰貴、人力の不足にも拘らず地元請負人並に地元民の協力により最初の予定よりすれば竣功期日は遅延したが、本年4月本橋の竣功を見た事は多とせねばなるまい。

鐵部架設方法は寫眞の示す如くケーブル・エレクションに依つた。之は本橋拱頂が水面より約40m高き關係上ステージングを架設することが事實上不可能に近きと、假りに之が可能であつたとしても出水時の増水に抗する手段なきためである。エレクション・タワーの高さは地盤上12mとしたが部材運搬上には



支障なきも、架渡後の支持索を取るには少々低きに失した嫌ひがあつた。全部の架設を終了する迄の間の拱肋部材は非常にフレキシブルなるものにして、このためエレクションの順序については非常に苦心が拂はれ、各格點に對し日々2回のレベリングを行ひエレクションの正確を期した(製作架設宮地鐵工所)

4. 工 事 費 内 譯

1 橋梁工事

a. 下部工事

- (イ) 拱脚工 1,353.860圓
(ロ) 橋脚工 2,415.200
(ハ) 橋臺工 2,366.860
(ニ) 袖石垣工 632.700
小 計 6,768.620

b. 上部工事

- (イ) 鐵部構造製作架設工事 80,600.000
(ロ) 床版高欄並舗装工 6,224.775

小 計 86,824.775

c. 合 計 93,593.395

(117.圓/m²)

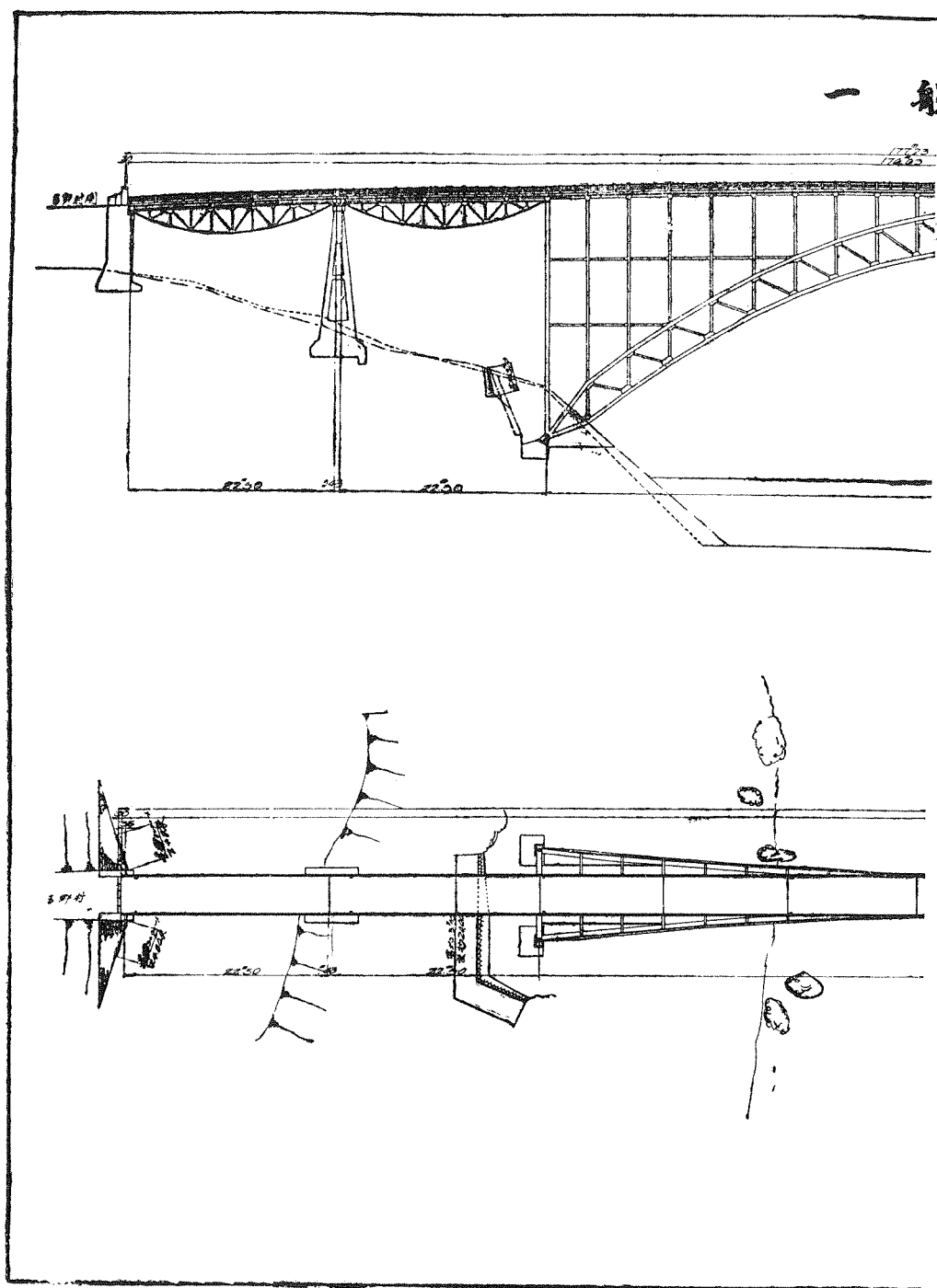
2 取付道路工事その他

- a. 取付道路工事 3,230圓260
b. 土留石垣工 157.560
c. 用地及地上物件費 3,400.000
d. 諸雜費 269.730
小 計 7,057.555

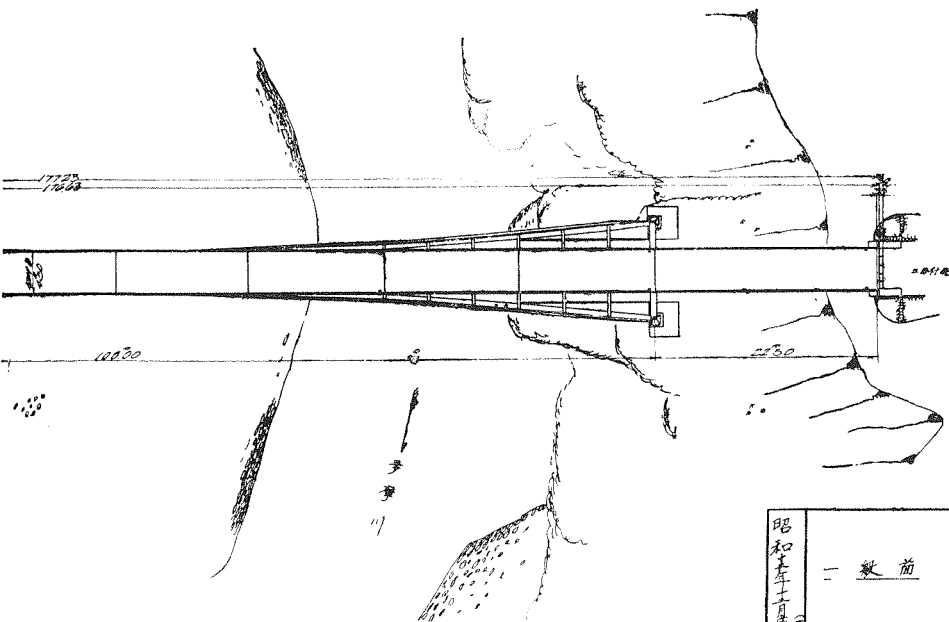
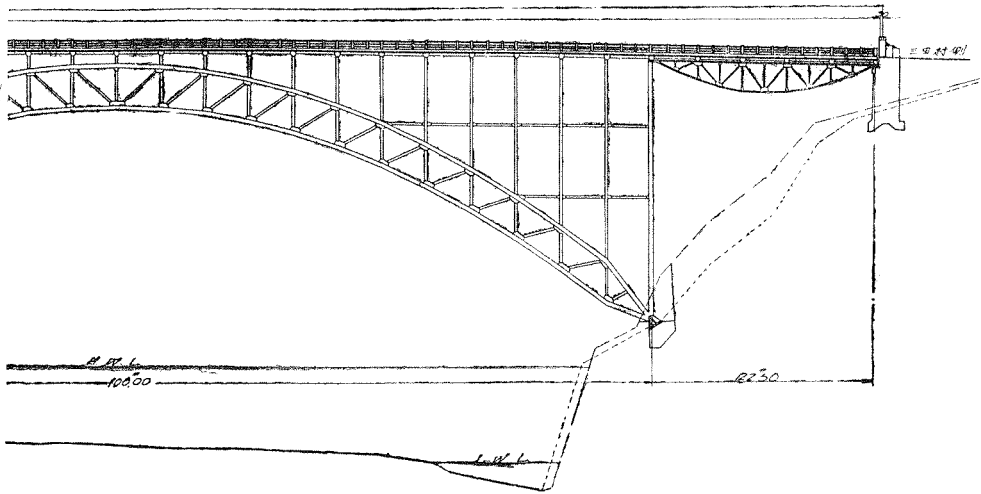
3 總 工 費 100,650,950

(以 上)

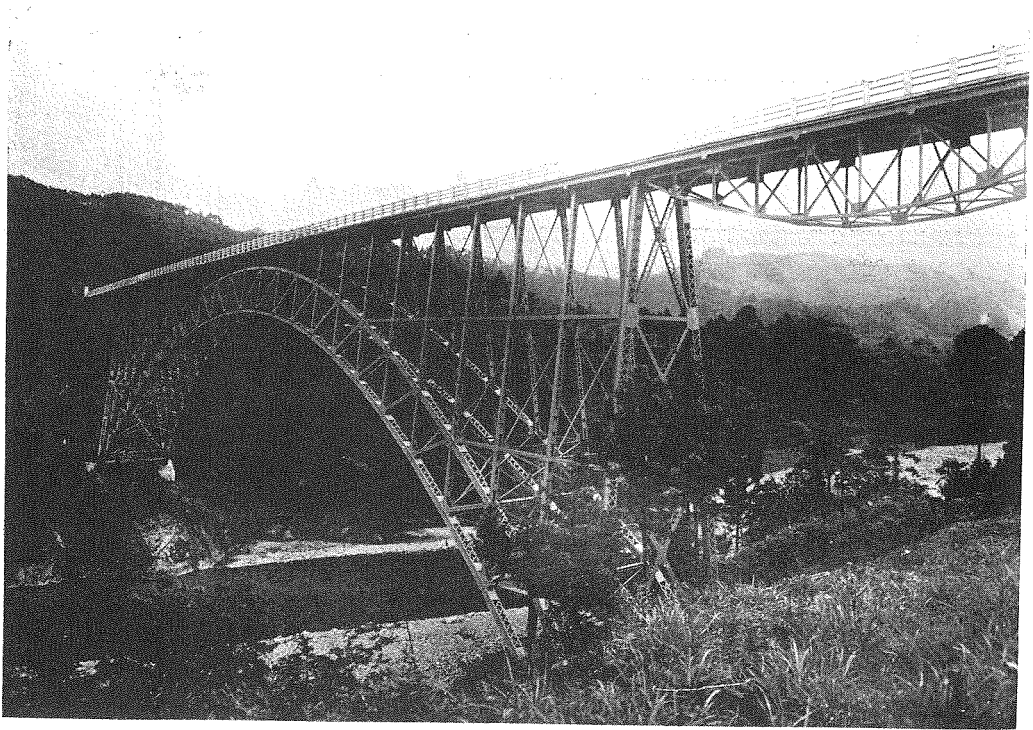
2. 奥多摩橋 (右岸下流側より望む)



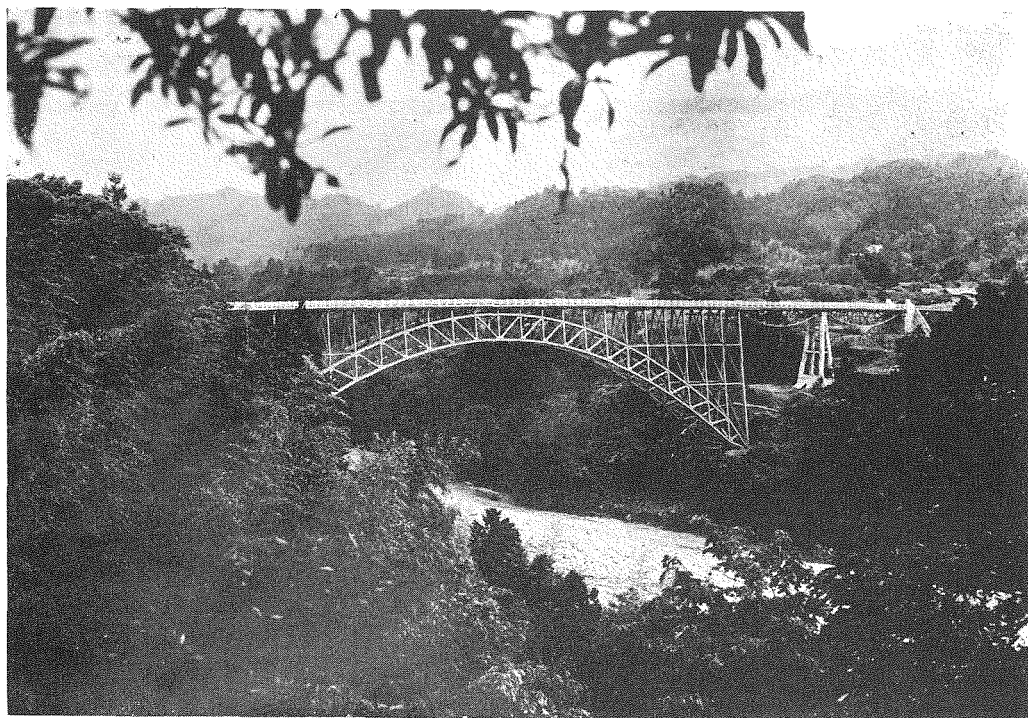
圖



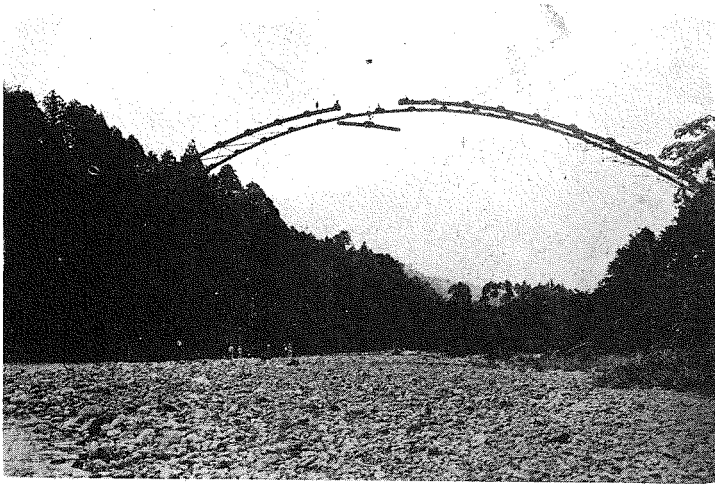
昭和十五年十月	一 数 前	奥多摩橋
1/10		



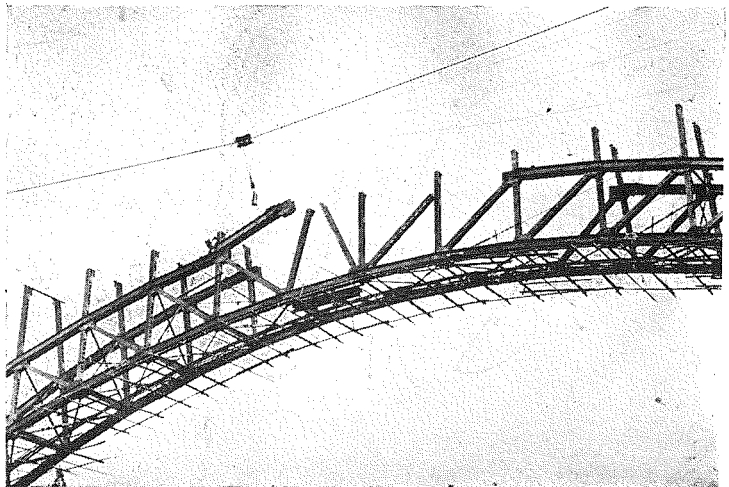
3. 奥多摩橋（右岸上流側より望む）



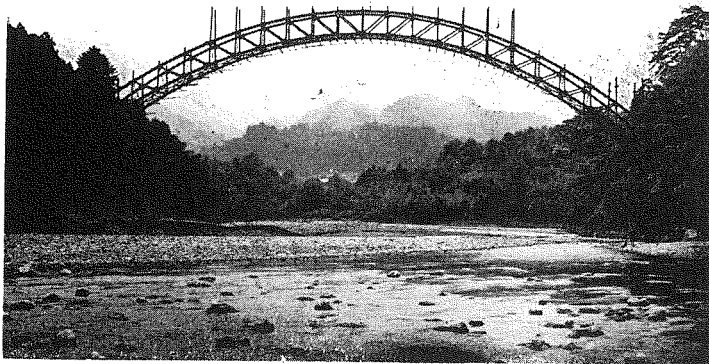
4. 奥多摩橋（左岸上流側より望む全景）



5. 奥多摩橋工事
(拱肋下弦材架渡)



6. 奥多摩橋工事
(拱肋垂直材斜材
及上弦材架渡)



7. 奥多摩橋工事
(腹腔部垂直材立
上り)